

新型コロナウイルスは、私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。長期臨時休校、外出自粛等を経験し、マスク着用、密を避ける暮らしが求められている。夏休みは大幅に短縮され、旅行等も控え、夏の楽しみを奪われた。感染症に脅かされ、当たり前だと思っていた日常生活は、決して当たり前ではなく、感謝すべきものだと思ふかされた。この経験は、人々の日常を根こそぎ奪う戦争の理不尽さについて、深く考える機会となった。太平洋戦争中、人々は穏やかな暮らしを破壊され、食べる物、着る物もなく、言論も制限された。

七十五年前、日本には人類史上、最も残酷な夏があった。広島、長崎に原爆が投下され、一瞬にしてこの世の地獄と化した。原爆は、多くの市民の尊い命を奪い、奇跡的に生き延びた人々さえも、絶望に追い込んだ。後遺症という肉体的な苦しみに悩まされ続け、更に、偏見、差別という精神的な苦しみを受けた。結婚や就職では特に差別が酷く、被爆の事実を隠し続けて暮らした人も少なくないそうだ。

被爆者に対する偏見、差別があったことに憤りを感じる。人間は、何故こんなにも身勝手な残酷なのだろう。コロナ禍においても、感染者やその周囲の人に対する偏見や差別、誹謗中傷が相次ぎ、自衛隊という言葉が飛び交っている。全ての人が穏やかに暮らせる事が平和だと思う。差別をすれば争いが起きる。平和は他人を思いやる心から生まれる。

人類が新型コロナウイルスの脅威に直面している今、求め

平和な日常生活の尊さ

東海高等学校 1年

細川貴生

られるのは、人々や国々の支え合いと協力である。国を守るためにと、より強力な兵器を国々が求め、その結果、人間を無差別に殺戮する核兵器が作られた。コロナ危機を乗り越えるためには、核兵器は何の力も持たない。世界は今こそ結束し、国際協力をしていく必要がある。人々に恐怖を与えるコロナウイルスを人間は完全に抑えることはできないかもしれない。しかし、核兵器は人間の手で完全になくすことができる。

原爆投下は、道義に悖る行為であると私は考える。正当化できる戦争などない。戦争は人間の意思が起すものだ。人間が作った原爆は、人間の意思で人間の上に落とされた。私は、中学の修学旅行で、広島の話り部の方から被爆体験を聞かせていただいた。語り部の方々は、思い出したくないはずの辛い体験を語ってくださり、命ある限り、原爆の恐ろしさを伝え、平和に尽力して下さっている。

被爆者の高齢化が問題となっている。私達は、被爆体験者から直接話を伺うことができる最後の世代であり、更にコロナ禍で日常の大切さを知った。そんな私達だからこそ、自分の耳で聞き、心で感じた戦争の無意味さ、原爆の非人道的性、残酷さを語り継ぎ、平和の尊さを世界に発信していく使命がある。残酷な形で広島、長崎の人々から日常を奪ったあの惨劇が、世界のどこにも二度と起きてはならない。全世界の未来の平和を切に願ひ、核兵器廃絶を強く求めていきたい。